

公開シンポジウム「みんなで進めよう、子どものヘルスプロモーション！」の開催

1. 主催：日本学術会議基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会、同健康・生活科学委員会子どもの健康分科会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会（24学協会加盟）、日本公衆衛生学会
2. 日時：平成22年10月28日（木）16：35～18：30
3. 場所：東京国際フォーラム 第3会場 ホールD7
（東京都千代田区丸の内3丁目5番1号）

4. 開催趣旨：

現在、日本の子どもの健康、生活、安全面において多くの危機的状況が存在し、重要な転換点にある。これらの現代的な健康課題の解決を図るには、ヘルスプロモーションの理念の下、社会の責任による子どもの健康に関する支援的環境の創造や健康的公共政策の確立等と、家庭、学校、地域社会における全生活レベルでの子どもの健康の擁護と推進が必要である。

このたび、日本学術会議健康・生活科学委員会子どもの健康分科会では、現代社会に生きる子どもの健康に関し、16分野（生活環境、出生前・乳幼児期、感染症予防対策、保育環境、虐待予防、口腔保健、食育、あそび、身体運動、心の健康、性行動、危険行動、セーフティープロモーション、発達障害、健康教育・保健教育、貧困・格差社会）において分析・検討を重ね、計56項目に及ぶ課題及び提案を抽出した。そして、これらの点をターゲットとして、社会を挙げて子どものヘルスプロモーションを推進するためには、以下の6つの方策を柱とする総合的・包括的取り組みが重要であるとの共通認識の下で、我が国の各界・各層において、連携を取りつつ、具体的に検討し、取り組むべきであることを、広く世に訴えた。

（報告 「日本の子どものヘルスプロモーション」）。

- （1） 健康的公共政策の推進と体制の整備を行う。
- （2） 健康に関する支援的環境を創造する。
- （3） 健康のための社会的ネットワークと地域活動の強化を図る。
- （4） 子どもが自らの健康をコントロールする個人的スキルや能力を強化する。
- （5） 健康開発のための研究とその組織づくりを推進する。
- （6） 学校を核とした地域のヘルスプロモーションを推進する。

今後、これらの点を重点とした「日本の子どものヘルスプロモーション」を、国を挙げて、国民とともに、各界・各層で、効果的に推進するためには、多くの手立てが必要である。その基盤となるのは、日本の社会における子どものヘルスプロモーションの理念のさらなる浸透と、国民的合意の形成であり、その端緒とする意味も込めて、ここに日本学術会議・子どもの健康分科会及び同・パブリックヘルス科学分科会が合い集いて、公衆衛生関連の24学協会、及び一般参加者とともに、研究の進展や、現

場での取り組み、あるいは健康政策・教育問題を始めとした諸問題について、広く多角的に、かつ集学的に議論するものである。

5. 次 第：

座長 下光輝一（日本学術会議連携会員、行動医学・ストレス学、全公連世話人、東京医科大学）

朝田芳信（日本学術会議連携会員、小児歯科学、鶴見大学）

基調講演（10分）

「日本の子どものヘルスプロモーション」

實成文彦（日本学術会議連携会員、公衆衛生学・学校保健学、全公連世話人代表、山陽学園大学・山陽学園短期大学）

話題提供（各7～12分）

1. 「健やか親子21」の今後の取組

山縣然太郎（疫学・公衆衛生学、山梨大学）

2. 生活習慣病胎児期発症（起源）説とライフスタイル

福岡秀興（母性衛生学、早稲田大学）

3. 教育・健康教育のパラダイムシフトを求めて

植田誠治（学校保健学、聖心女子大学）

4. 小児医療の課題と展望

横田俊平（小児科学、全公連世話人副代表、横浜市立大学）

5. 家庭・学校・地域・職域の連携

（1）看護専門職の機能と役割

小西美智子（日本学術会議連携会員、地域看護学、岐阜県立看護大学）

（2）栄養専門職の機能と役割

伊達ちぐさ（栄養改善学、兵庫県立大学）

総合討論

各学協会コメント・メッセージ

※申込み不要、参加費無料

【お問い合わせ先】

第69回日本公衆衛生学会総会運営事務局

電話：03-3263-8688

E-mail: jsph69@secretariat.ne.jp